

令和元年6月19日現在

機関番号：32665

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16814

研究課題名（和文）ウラジーミル・ナボコフの渡米後の受容の変化をめぐる研究

研究課題名（英文）The study of the reception of Valdimir Nabokov in his American years

研究代表者

秋草 俊一郎 (AKIKUSA, Shun'ichiro)

日本大学・大学院総合社会情報研究科・准教授

研究者番号：70734896

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：ウラジーミル・ナボコフの渡米以降のコンテキストにおける受容の変化について研究をおこなった。北米のアーカイブ（ニューヨーク公共図書館バーグコレクション）を訪問して、出版社とのやりとりについて資料調査をおこなった。またインディアナ大学図書館などより資料をとりよせて調査した。その結果、ナボコフの渡米後の受容のされ方やコンテキストの変化について、知見を与えることができた。研究成果はおむね単著『アメリカのナボコフ 塗りかえられた自画像』（慶應義塾大学出版会）にまとめ、出版した（2018）。

研究成果の学術的意義や社会的意義

作家が出版活動をつつじていかに名声を獲得し、世界的な作家になっていくのかという観点による研究のため、狭義の「文学」の分野にかぎらず広く社会的な意義をもつと思われる。具体的には、翻訳や出版、学術研究の刊行、作家同士のコミュニティなどについて、本研究より知見を与えることができる。また作家の遺品のオークションなども考察したため、美術品の流通に関してもサンプルとなっている。

研究成果の概要（英文）：I researched the change of the context in Vladimir Nabokov's American years. I visited and researched some publishing materials and correspondence between Nabokov and his publishers in New York Public Library's Berg Collection. I also researched some materials on Nabokov's publications in Indiana University's archive and some photographs of Nabokov and his wife. Through the research, I understood his circumstance in which Nabokov had to publish his English works after 1940. Finally, I have published a monograph "Nabokov in America: A Repainted Self-portrait" from Keio University Press in 2018.

研究分野：比較文学

キーワード：ナボコフ 出版 翻訳 比較文学 受容

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ナボコフの作品『ロリータ』、その伝記的事実の一部 亡命者であり、英露両言語に精通しすぐれた文学作品を書いた はそれなりに知られている。ナボコフ伝としてはブライアン・ポイドによる浩瀚な伝記(1990-91)が長きにわたり決定版として君臨してきたが、アンドレア・ピッツァーによる新資料を用いた伝記が2012年に発表され、伝記的事実についてもいまだ更新の余地があることが示された。2009年には議会図書館に寄贈された資料が閲覧を解禁され、それと並行して遺稿『ローラのオリジナル』(2009)、『『賜物』第二部』(2015)、『ヴェラとの書簡集』(2014)などが続々と出版され、ナボコフ研究はアーカイブ資料のサルベージによるコーパスの拡張および、拡張したコーパスにアーカイブ資料を組み合わせる新たなステージに入ったと言える。

こうした研究動向のなかで浮上した課題のなかに、ナボコフの受容というテーマがある。受容に大きな役割をはたすのは流通であり、出版だが、ナボコフと出版文化についてはユリー・レヴィングによる『ロリータ』を中心としたナボコフのペーパーバックについての書籍が刊行されている。また亡命ロシア文化という観点からは、諫早勇一が研究成果を発表しているほか(『ロシア人たちのベルリン』、2014)、1930年代にナボコフの主な作品の発表先になった『現代雑記』の編集者との間に交わした書簡が編纂されて出版された(『『現代雑記』、パリ、1920-1940、編集部のアrchiveから』第4巻〔露語、2014〕)。とくに後者は1920年代の書簡の多くが失われていることを考えると、亡命ロシア文壇でのナボコフ評価について重要な資料である。

本申請課題では1940年の渡米以降のナボコフの受容を調査するが、英語圏での受容に重要な役割をはたしたニューディレクションズについては、Greg Barnhiselのモノグラフ *James Laughlin, New Directions, and the Remaking of Ezra Pound* (2005)が出版社とその創業者ロフリンがパウンド受容およびモダニズム普及に果たした役割を論じており、ナボコフの場合にもモデルケースとして利用できる。『ニューヨーカー』誌との関わりについてはレヴィング編による *Anatomy of a Short Story* (2012)に収められた編集部との書簡が参考になる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ウラジーミル・ナボコフ(1899-1977)の未公刊書簡・出版資料を調査することで、作家が受容されたコンテクストを再構築することにある。帝政ロシアに生まれたナボコフは亡命し、のちにアメリカに渡って『ロリータ』などの作品で、20世紀を代表する作家という国際的な評価をえるにいたった。ただしその名声への道筋は、完全に明らかになっているとは言いがたい。ひとつの理由として、ナボコフの書簡・原稿などの資料は研究が進んでいるものの、なお一部が未公刊であり、専門家でも全貌を把握できていない現状がある。本研究では、北米のアーカイブを訪問して書簡・当時の広告・書評などの資料を収集し、ナボコフの受容(いかに英語作家として認められ、世界的な名声をえるにいたったか)を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、具体的な研究方法としてアーカイブ調査の手法を用いる。調査をおこなう図書館として、ニューヨーク公共図書館を予定している。調査の対象としては、英語資料だけでなく、ロシア語資料もふくめているため、ナボコフについて網羅的・総合的な理解をすすめることができる。主に以下の二点を重点的に行う。

- (A) 編集者・出版社とのやりとりを中心にした、ナボコフの未公刊書簡のアーカイブ調査
- (B) ナボコフの作品の出版当時の資料(ブックカバー・広告・書店への宣伝資料・書評)の調査

4. 研究成果

ウラジーミル・ナボコフの渡米以降のコンテクストにおける受容の変化について研究をおこなった。北米のアーカイブ(ニューヨーク公共図書館バークコレクション)を訪問して、出版社とのやりとりについて資料調査をおこなった。またインディアナ大学図書館などより資料をとりよせて調査した。またインディアナ大学のアーカイブより、編集者ゴードン・リッシュとのあいだの書簡をとりよせて調査した。またさまざまな媒体に掲載されたナボコフの写真を分析した。その結果、ナボコフが渡米後、出版活動それ自体や、出版・作家コミュニティの中で活動をつうじて、自分のパブリックイメージを入念につくりあげていったことが明らかになった。資料調査と並行して、国際的な研究集会MLAにも参加し、研究者と交流することで、ナボコフ研究における最新の研究成果について情報収集をおこなった。ナボコフとアメリカにおける最初の編集者のひとりであるジェームズ・ロフリンについては論文 “Nabokov and Laughlin: A Making of an American Writer” にまとめ、Nabokov Online Journalに掲載した。ナボコフの日本の詩歌の需要については論文 “Nabokov and Hearn: Where the Transatlantic Imagination Meets the Transpacific Imagination” としてまとめ、論集 *Nabokov Upside Down* に寄稿した。さらにナボコフの作品いくつかの翻訳をおこない、その活動についての知見を深めることもできた。上記のような研究成果は、おおむね単著『アメリカのナボコフ 塗りかえられた自画像』(慶應義塾大学出版会)にまとめ、出版した(2018)。本単著の出版により、研究は予定通り完遂されたと言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 11 件)

秋草俊一郎、ナボコフの「あやまち」、新潮、115 巻 7 号、2018、194-195

秋草俊一郎、Duncan White, Nabokov and His Books: Between Late Modernism and the Literary Marketplace, Krug, 日本ナボコフ協会、11 号、2018、85-88

秋草俊一郎、既成概念の枠を広げ新しい読者層を開拓する野心的な試み(書評『ナボコフ・コレクション』新潮社) 週刊読書人、2017

ウラジーミル・ナボコフ、秋草俊一郎訳、ヴェラへの手紙(解説)、すばる、2017 年 12 月、224-244

秋草俊一郎、Nabokov and Hearn: Where the Transatlantic Imagination Meets the Transpacific Imagination、査読有、*Nabokov Upside Down*、Northwestern University Press、2017、156-168

秋草俊一郎、科学の興奮と詩の精密さ ウラジーミル・ナボコフの文学、知のフィールドガイド 分断された時代を生きる、白水社、2017、94-109

秋草俊一郎、ナボコフは世界文学か? 亡命・二言語使用・翻訳、すばる、集英社、11 号、2017、275-280

秋草俊一郎、ナボコフとエリオット 「ゲーム」から「モラル」へ、「歴史」から「伝記」へ、27 号、2016、52-68

秋草俊一郎、Nabokov and Laughlin: A Making of an American Writer、査読有、*Nabokov Online Journal*、Vol. 10/11、2016、1-23

秋草俊一郎、「書き直し」としての自己翻訳 ノーベル文学賞候補西脇順三郎の「神話」、アウリオン叢書、白百合女子大学、16 号、2016、103-124

秋草俊一郎、術語としての「世界文学」、1895 2016、文学、岩波書店、17 巻 5 号、2016、3-24

〔学会発表〕(計 4 件)

秋草俊一郎、ナボコフの翻訳を再考する、明治学院大学言語文化研究所主催シンポジウム『トランスレーション・アダプテーション・インターテクスチュアリティ』、2018 年 3 月 12 日

秋草俊一郎、ナボコフは世界文学か?、シンポジウム「複数の言語、複数の文学 やわらかく拡がる創作と批評」、東京大学駒場キャンパス、2017 年 3 月 12 日

秋草俊一郎、亡命の傷 ナボコフの場合、日本仏文学会秋季大会、名古屋大学、2017 年 10 月 29 日

秋草俊一郎、北米における「世界文学」教育と日本文学の関係、北海学園大学、日本比較文学会北海道大会、2016 年 11 月 12 日

〔図書〕(計 5 件)

秋草俊一郎、慶應義塾大学出版会、アメリカのナボコフ 塗りかえられた自画像、2018、360

エミリー・アプター、秋草俊一郎他訳、慶應義塾大学出版会、翻訳地帯 新しい人文学の批評パラダイムにむけて、2018、420

ウラジーミル・ナボコフ、秋草俊一郎他訳、新潮社、ルージン・ディフェンス/密偵、2018、377

ウラジーミル・ナボコフ、秋草俊一郎編訳、作品社、ナボコフの塊 エッセイ集 1921-1975、2016、448

フランコ・モレットティ、秋草俊一郎他訳、みすず書房、遠読 <世界文学システム>への挑戦、2016、360

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
<https://researchmap.jp/read0139894/>

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。